

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」について

- ① 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿に参加します。（令和6年度は7月13日（土）～15日（月）を予定しています。）

【ここからの活動は任意です】

- ② ①での学びを活かし、地域の課題解決のための実践活動を行います。
活動内容は、各自の興味・関心のあることで構いません。
- ③ ②の活動を基に活動報告書を提出し、地方ステージにエントリーします。
- ④ 地方ステージで発表します。（令和6年度は令和7年1月18日（土）・19日（日）に中央青少年交流の家で実施予定です）
地方ステージを勝ち抜くと、全国ステージに進出できます。
- ⑤ 全国ステージで発表します。（毎年2月の中旬の土日に、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）で行われています）
最優秀賞は文部科学大臣賞になります。
過去にこの賞を受賞した中央の参加者は、国公立大学や有名私立大学に推薦で進学しています。

全国高校生体験活動顕彰制度の概要はこちら（昨年度までの資料等もご覧になれます）

<https://tankyu.niye.go.jp/>

◎ 地域探究のススメ

- 探究的な学びの理解を深める
学校でも行われている総合的な探究の時間。フィールドワークや講師からの話により、その探究的な学びをより深めることができます。
- 進学／就職に役立つ
今は、学力だけでなく、高校で何を学んできたかが問われます。大学も推薦入学者を増やす傾向にあり、高校での活動や取組を重要視しています。
- 仲間がたくさん増える
毎年、県外からの参加者もあり、新たな仲間を増やすことができます。また、意識の高い参加者が多く、3日間でも多くの刺激を受けることができます。

資料

令和5年度全国高校生体験活動顕彰制度

「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 開催要項
実施報告書

令和5年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」
オリエンテーション合宿 in 国立中央青少年交流の家

Take the first step

開催要項



1. 趣 旨

ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けさせる。また、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する人材を育成する。

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家

3. 期 日 令和5年7月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝) 2泊3日
(原則宿泊としますが、希望者は日帰りでの参加も認めます。)

4. 会 場 国立中央青少年交流の家及び御殿場市周辺

5. 対 象 高校生

6. 募集人数 30名程度

7. 持 ち 物 活動しやすい服装 筆記用具 雨具(レインウェア) 昼食 参加費
帽子 飲料水(フィールドワークもありますので、十分な用意をお願いします。)
【宿泊者】着替え 上履き タオル
洗面用具(浴室には石鹸・シャンプー等の備え付けはありません。)

8. 参加費 5,400円(食費6食分(7/15夕~7/17昼)・シーツ等洗濯料・傷害保険料など)
【日帰り】700円(傷害保険料及び雑費。昼食代は含まれておりませんので各自ご用意ください。希望者は16日・17日の昼食はレストランで食事をすることもできます。(1食720円))

9. オリエンテーション合宿 講義等日程

| | 7月15日(土) | 7月16日(日) | 7月17日(月・祝) |
|-------------|-------------------------|------------------------|---------------------|
| 8:30~8:50 | 受付 | | |
| 8:50~9:00 | 開講式 | | |
| 9:00~9:50 | ガイダンス | 講義・演習② 「課題解決の基礎」 | 講義・演習④ 「行動計画の基礎」 |
| 10:00~10:50 | 講話 「地域づくりの実践」 | | |
| 11:00~11:50 | 昼食・休憩 | 昼食・休憩 | |
| 12:00~12:50 | フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」 | フィールドワーク② 「地域課題の探究」 | 昼食・休憩 |
| 13:00~13:50 | | | 講義・演習④ 「行動計画の基礎」 |
| 14:00~14:50 | | | 発表② |
| 15:00~15:50 | 講義・演習① 「地域理解」 | 講義・演習③ 「地域課題の探究」 | |
| 16:00~16:50 | | | 実践活動のためのガイダンス |
| 17:00~17:50 | | 発表① | 閉講式 |

※青→導入(4科目7単位時間) 緑→探究のプロセス(4科目8単位時間) 赤→地域課題の取組(3科目7単位時間)

※1単位時間=50分

【7月15日（土）】

◆ガイダンス〔アイスブレイク含む〕（9:00～9:50 1単位時間）

⇒全国高校生体験活動顕彰制度の説明を受けるとともに、オリエンテーション合宿のスケジュールを確認する。

◆講話「地域づくりの実践」（10:00～10:50 1単位時間）

⇒昨年度オリエンテーション合宿に参加し、全国ステージにおいて文部科学大臣賞を受賞した学生の取組を聴くことにより、地域づくりを実践していくための意欲を高める。

◆フィールドワーク①「地域の魅力を発見」（12:00～14:50 3単位時間）

⇒地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。

◆講義・演習①「地域理解」（15:00～16:50 2単位時間）

⇒グループ協議において、フィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深める。

【7月16日（日）】

◆講義・演習②「課題解決の基礎」（9:00～10:50 2単位時間）

⇒フィールドワーク①において参加者一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイディアによる仮説（解決策）を立て、グループ全員で共有する。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討する。

◆フィールドワーク②「地域課題の探究」（12:00～13:50 2単位時間）

⇒講義・演習②で立てたグループ内一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動（解決策）を探ったりするための取組を行う。

◆講義・演習③「地域課題の探究」（14:00～16:50 3単位時間）

⇒フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索し、発表①（グループ発表）の準備を行う。

◆発表①〔グループ発表〕（17:00～17:50 1単位時間）

⇒講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行う。

【7月17日（月・祝）】

◆講義・演習④「行動計画の基礎」（9:00～13:50 4単位時間 ※途中昼食休憩含む）

⇒オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成するとともに、発表②（個人発表）の準備を行う。

◆発表②〔個人発表〕（14:00～15:50 2単位時間）

⇒個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有する。

◆実践活動のためのガイダンス（16:00～16:50 1単位時間）

⇒実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解する。

10. フィールドワーク コース概要

A 御殿場市コース① 【講師：阿山 恭弘 氏（株式会社時之栖 常務取締役）】

富士山のふもとにある御殿場市は、観光名所も多い。そのような御殿場市の魅力を発信し、多くの人々が足を運んでくれるように、ホテルや旅館は、様々な努力をしている。フィールドワークを通して、御殿場市の魅力発信についての課題や取組を探究する。

B 御殿場市コース② 【講師：荒井 仁 氏（有限会社荒井友吉商店）】

明治時代以降、静岡県は日本一の茶処として、日本の茶業をリードしてきた。御殿場市でも、冷涼な気候を生かし、茶業が盛んに行われ、お茶は地域の人々の生活にも深く関わってきた。近年、国際化や人口増加に伴い、世界のお茶消費量はますます増加している。しかし一方で、茶業の担い手不足や消費トレンドの変化への対応など課題も多い。フィールドワークを通して、御殿場市の茶業の魅力と抱えている課題を発見し、課題解決を探究する。

C 御殿場市・小山町コース 【講師：岡田 美幸 氏（株式会社ノースゲイト 副社長）】

【講師：高橋 頼太 氏（社会福祉法人 婦人の園 理事長）】

2012年の『障害者総合支援法』などの法整備、さらには2014年の『国連・障害者権利条約』の締

結国加入などにより、我が国の障害者福祉に係わる予算も増え、環境も整いつつある。しかしその一方で、障害者工賃は非常に低く、自立への後押しになっていない。フィールドワークを通して、障害者福祉を知り、現代社会が抱える課題を改善できる取組を探究する。

D 裾野市コース 【講師：宮坂 里司 氏 (NPO 法人みらい建設部 事務局)】

裾野市は豊かな自然と製造業をはじめとした産業が調和した都市として発展してきた。さらに発展に伴う就業構造の変化や技術（産業）の革新は、暮らしに豊かさと変化をもたらした。一方で、新たな課題も生まれている。近年、全国的な問題となっている放置竹林の増加もその一つである。フィールドワークを通して、地域課題の見方を変えることで、地域の新たな魅力を生み出す取組を探究する。

11. 申込方法

【申込期間】 令和5年6月5日（月）～6月30日（金）

（応募者多数の場合には抽選とさせていただきます。その場合の抽選結果につきましては、7月4日（火）までにメールで連絡させていただきます。ご理解のほどよろしくお願いたします。また、参加決定者には後日メールを送信いたしますので、受信をご確認ください。）

【申込方法】 右記 QR コードからお申込みください。



12. その他

- (1) 詳細な内容は、7月5日（水）までにご案内いたします。
- (2) 天候等により、活動内容が変更または延期等となる場合もございます。予めご承知おきください。

13. 問い合わせ先（ご不明な点については、下記担当までご連絡願います。）

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家
 〒412-0006 静岡県御殿場市中畑 2092-5 TEL : 0550-89-2020 FAX : 0550-89-2025
 E-mail : fujinosato-kss@niye.go.jp 「Take the first step」担当：間瀬・鈴木(俊)・高瀬

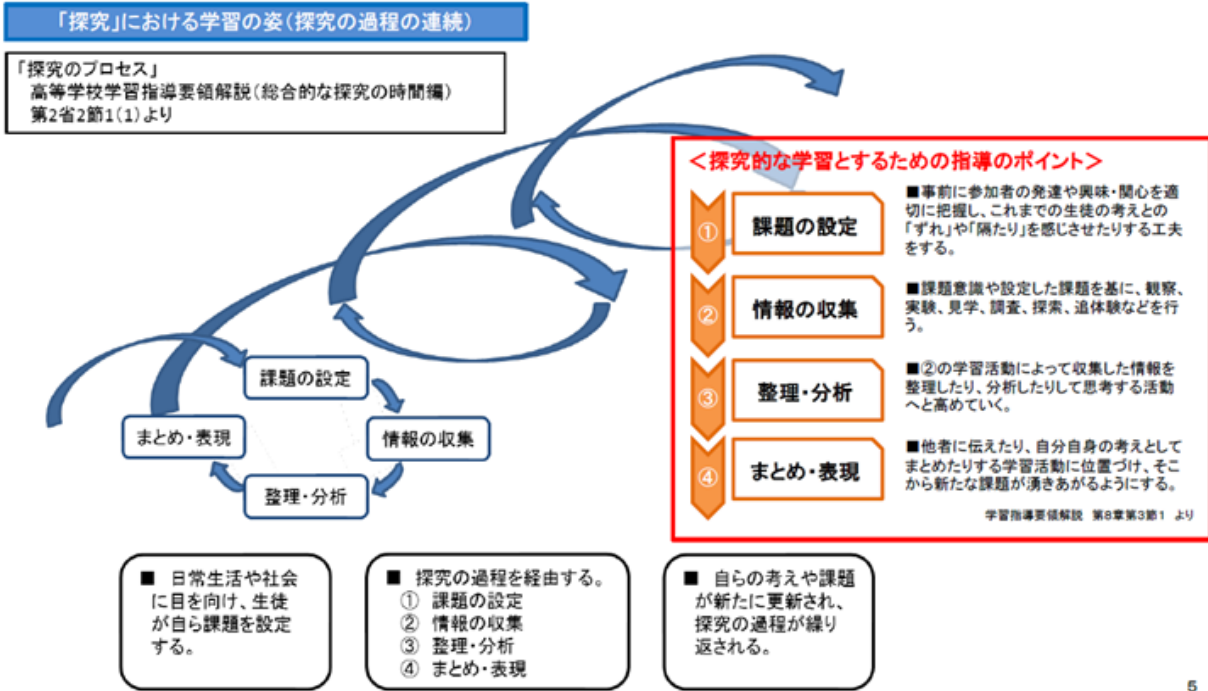
2015年の国連サミットで、全会一致で採択された2030年までの国際目標「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成を目指し、国立中央青少年交流の家は、率先して推進活動に取り組んでいきます。



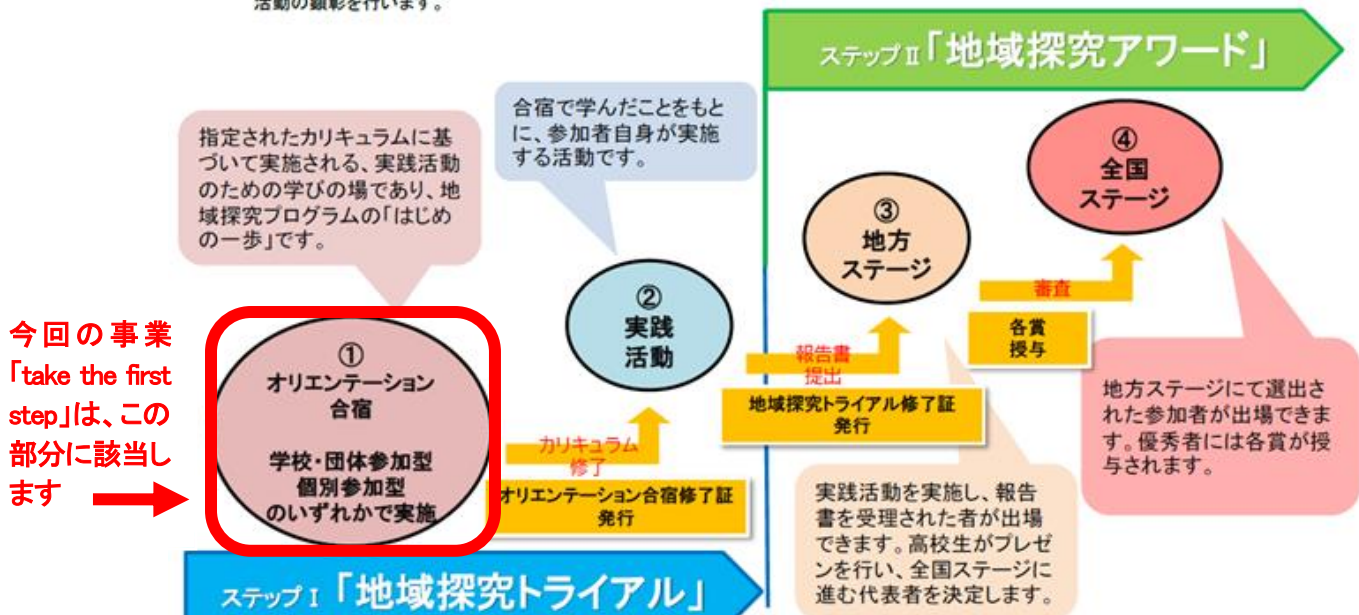
全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」の概要



地域探究プログラムでは、今回の学習指導要領の改訂に伴って名称が変わった「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れています。



「地域探究プログラム」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



今回の事業「take the first step」は、この部分に該当します →

※定点の評価を設けることで、個々人の状況や進度に応じた評価ができる仕組みとしています。

令和5年度 国立中央青少年交流の家

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿(Take the first step)

令和5年7月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝) 2(0)泊3日



○趣旨

ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けさせる。また、多彩な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する人材を育成する。

○参加者

高校生 29名(宿泊19名、日帰り10名)

○事業の内容 11科目 22単位時間

(1) ガイダンス

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章



アイスブレイクによって仲間づくりを行った後、全国高校生体験活動顕彰制度とオリエンテーション合宿の説明を受けるとともに、探究的な学びを進めていく上での心構えを学んだ。

(2) 講話「地域づくりの実践」

横浜市立大学 小池 りりい さん 駒走 旬星 さん

一昨年度の地域探究プログラム全国ステージにおいて、文部科学大臣賞を受賞した大学生の講話を聴くことにより、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高めた。

(3) フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

- ・株式会社時之栖 阿山 恭弘 氏(観光) ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏(茶業)
- ・株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏、社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏(福祉)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏(放置竹林)

地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見するとともに、地域が抱えている課題について考察した。



(4) 講義・演習①「地域理解」

講義・演習②「課題解決の基礎」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習①では、グループ協議においてフィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深めた。

講義・演習②では、フィールドワーク①において一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイデアによる仮説(解決策)を立て、グループ全員で共有した。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討し、まとめた。

(5) フィールドワーク②「地域課題の探究」

- ・株式会社時之栖 阿山 恭弘 氏(観光) ・有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏(茶業)
- ・株式会社ノースゲイト 岡田 美幸 氏、社会福祉法人婦人の園 高橋 頼太 氏(福祉)
- ・NPO法人みらい建設部 宮坂 里司 氏(放置竹林)

講義・演習②で立てた一人一人の仮説をグループで検証するため、講師へのインタビューや質疑応答等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動(解決策)を探ったりした。

(6) 講義・演習③「地域課題の探究」

発表①〔グループ発表〕

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習③では、フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索した。

発表①では、講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行った。その際、伝えたいことや構成を明確にするなどのプレゼンテーションの基礎についても学んだ。

(7) 講義・演習④「行動計画の基礎」

発表②〔個人発表〕

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

講義・演習④では、オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成した。

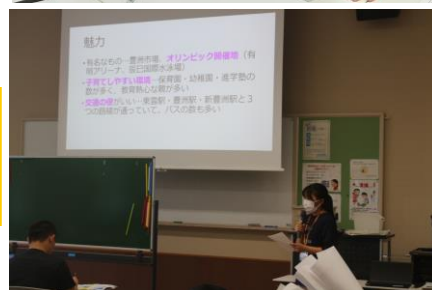
発表②では、個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有した。



(8) 実践活動のためのガイダンス

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 間瀬 哲章

実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解するとともに、実践活動や地域探究アワードなど今後の日程や手順について確認をした。



《事後アンケートより》

【『探究的な学び』に関する理解が深まった】 4段階評価で3以上100%

- ・探究的な学びは学校で経験したが、なんとなくやっていたため、今回の合宿で理解が深まった。
- ・探究の楽しさを知れ、さらに地域理解も深まったので、学校、私生活にも還元したい。
- ・探究活動に間違いはないことを改めて理解した。
- ・どのように考えて、どのように理解を深めていけばよいかを知ることができた。
- ・自分が好きなこと、やってみたいことを活動内容にすることで、楽しみながら探究することができ、さらには自分のことを知り、新たな自分に気づき、自分を成長させるきっかけもなった。

【『ぜひまた『探究』してみたい』と思えた】 4段階評価で3以上100%

- ・今回の合宿で論理的に考えることを学び、楽しかった。
- ・自分の住んでいる市にはあまり問題点が無いように感じていたが、視点を変えたりすると問題点が見つかるということが学べ、これからの探究にこの経験はとても役立つと思った。
- ・自分の価値観が広がったと思った。
- ・地域の魅力や課題を発見することができ、課題の解決方法を考える力、主体的に取り組む力をつけることができた。
- ・様々な考えや価値観を持つ人たちと話し合いながら課題を見つけ、解決していくという過程がとても面白いと感じられた。

《成果と課題》

- フィールドワークのコースを、観光・茶業・福祉・放置竹林と、分野が違う4つのコースから選択できるようにしたことで、参加者のニーズに合った地域課題の探究を実施することができた。
- 10校から29名、また県外の高校からも参加があり、講義・演習においては様々な意見交換がなされた。参加者は、同世代の仲間から刺激を受けるとともに、深い学びに繋げることができた。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の5類移行に伴い、原則2泊3日の宿泊で開催した（ただし、希望者は日帰りでの参加も認めた）。半数以上が宿泊を希望し、寝食を共にすることの利点も活かした人間関係も生まれ、より良い活動を行うことができた。
- フィールドワークの講師や法人ボランティアとの事前の情報共有をさらに密にすることで、より良い活動、より深い学びになると感じたため、来年度以降の事業に活かしていきたい。